

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0194100236), 法人名 (有限会社 ふれ愛), 事業所名 (グループホーム ふれ愛の花 1階), 所在地 (〒085-0031 北海道釧路市中島町4番11号), 自己評価作成日 (平成25年2月26日), 評価結果市町村受理日 (平成25年4月17日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ふれあう真心、あふれる笑顔」のホーム理念のもと、一人ひとりかけがえのない存在として尊厳を大切に、そのひとらしく生活できるよう支援しています。認知症の方が落ち着いて生活できるよう温度、音、明かり、香り等の環境を整え、清潔を保つよう心掛けています。職員も環境のひとつであると考え、認知症の方の話を否定せず傾聴、共感、寄り添うケアを心掛けています。認知症の方の残された力を発揮できるよう、できることできないことを見極め、できることはして頂き、できないことをさりげなく支えるようにしています。日常的に利用者と職員と一緒に掃除や食事作りを行ったり、ホームでの役割を持って頂くことで張り合いを持って生活できるよう支援しています。家族の方がホームに来られた時は笑顔で挨拶したり、利用者と一緒に時間を過ごして頂けるよう配慮したり、家族の方が訪問しやすい雰囲気作りを心掛けています。何かあったら家族の方に相談し協力を得ながら、その人らしい生活を送れるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani?true&JigyosyoCd=0194100236-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人北海道社会福祉協議会), 所在地 (〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地), 訪問調査日 (平成25年3月19日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は釧路市内橋北地区住宅街の一画に位置し、木造2階建ての2ユニットで、近隣には双葉保育園や共栄小学校がある。運営者は職員研修計画を策定し、全職員が介護に関わる研修を受ける機会をつくり、管理者は内部研修を実施して利用者のサービスの向上に努めている。市郊外に農園を借りて職員と利用者が協同で種植えや草取りなど行い、収穫して食卓を賑わし食事を楽しんでいる。職員は利用者信頼関係を築いており、利用者は笑顔で明るく利用者同士の会話もある。介護計画はセンター方式を採用し、各ユニットごとにケア会議を行い、3ヶ月に1回見直ししており、変化があればその都度対応している。消防訓練は年2回行い、内1回は消防署の指導で夜間を想定した訓練を行い、地域住民も見学している。事業所は2ヶ所の町内会に加入しており、今年度は班長として町内会費の徴収や行事(盆踊り大会)に参加するなど地域との交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大切にしたい事業所の理念をつくり、常に見える所に掲示している。定例の会議や社内研修等で管理者と職員は、理念の共有を図り、実践につなげている。	法人の理念である「ふれあう真心、あふれる笑顔」のもと、事業所では利用者の尊厳を目標に掲げており、定例会議で確認し日々実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、班長を務めたり、廃品回収の協力をしたり、盆踊り等町内会の行事に参加している。また地域の方々からもホームの慰問、避難訓練の見学に来て頂き、少しずつ交流が増えてきている。	事業所の立地の関係で2ヶ所の町内会に加入しており、班長などを経験し利用者と共に町内会の盆踊り大会への参加や見学をして地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の人の理解や支援について話をさせて頂いている。地域の方から訪問や電話で認知症について相談を受けた時は、対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、運営推進会議を開催しており、評価への取り組み状況、行事、研修等の報告を行っている。そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に町内会の役員や近隣の小学校の先生もメンバーとして加入し、事業所の行事として、もちつき、ひな祭り、小学校運動会応援、幼稚園慰問、焼肉会の企画に参加し協力している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者は、日頃より市役所へ出向き、担当者に事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。また、何かあった時は、速やかに担当者に連絡し、報告、相談を行っている。	市の担当課に運営者が訪問して事業所の状況を報告し、管理者は利用者の生活状況を報告して、助言を得たり指導を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束と禁止の対象となっている具体的な行為について、すべての職員に研修で周知され、日常的に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は、夜勤帯以外はしておらず、入居者の帰宅願望等には、無理に引きとめず、一緒に外へ出掛けホーム周りを散歩したり、本人の思いを傾聴したりのケアで対応している。	運営者は職員研修計画を策定して全職員が研修の機会を得るよう努めており、職員は外部研修に参加して「身体拘束をしないケア」を学び、内部研修を行い日々実践に取り組んでいる。玄関の施錠は防犯上夜間に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修に参加して学んでいる。入浴や更衣の際に身体を確認し、変色、あざ等発見した場合、管理者に報告、職員間で共有し、虐待が見過ごされることがないように注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加し、制度について理解している。いまのところ必要性が高い利用者はいないが、今後必要になる場合もあるので、職員についても研修等で制度について学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にホームに見学に来て頂き、利用者、家族の不安や疑問点について十分な説明を行っている。契約の際には重要事項について丁寧に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者や家族とのコミュニケーションを積極的に図り、意見、要望を引き出せるよう努め、それらを運営に反映させるよう取り組んでいる。	職員は常に利用者や家族と話しやすい雰囲気作りに努めており、家族の訪問時に意見や要望を聞いて柔軟な受け入れに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の中で、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また普段より職員が意見を言いやすい雰囲気を作るよう努めている。	管理者は職員同士が話しやすい環境作りに努めている。各ユニットごとにフロア会議を月1回行い、利用者の生活状況や職員からの要望などを聞き、指導に努めている。管理者は、職員との個人面談を行い勤務の状況等について意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個人の勤務状況を把握し、努力や実績を評価している。各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の力量を把握した上で、積極的に外部の研修を受ける機会を設けている。また同じ法人の他の事業所と合同で研修を行っている。研修後は、報告書を作成し、会議で内容、感想等発表して、学んだことを活かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症GH協会の研修、行事等に積極的に参加し、他のホームの職員との交流を図っている。他のホームの行事に参加させて頂き、ネットワークづくり、情報交換等を行い、ケアの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談、本人との面談の段階から、困っていることや要望等を把握し、安心して入居できるよう努めている。入居後は、本人の言葉、態度、表情から本意を汲み取り、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談では、家族の思い、困っていることや不安なことをじっくり聴くよう努めている。入居後は家族が来訪した時は、本人の状況を報告し、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた段階で、本人の状況、ニーズを把握し、その時に必要とされる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に掃除、食事づくりを一緒に行い、利用者から長年の経験から教えて頂くことも多い。食事やお茶のひと時を共に過ごし、そこでいろいろな会話をし、暮らしを共にしている者同士という関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪した時は、出来るだけ本人とゆっくり過ごせるよう配慮している。普段の生活の様子を家族に報告、なにかあった時は相談している。共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や以前住んでいた家の近所の方等、馴染みのある方が来訪された時は、笑顔で出迎え、本人の所へ案内している。馴染みの方に電話を掛けたいと要望のある利用者には、電話の取り次ぎをしており、馴染みの方との関係が途切れなよう、努めている。	センター方式のシートで入居前の状況を把握しており、馴染みの友人の訪問や電話の取り次ぎを支援したり、馴染みの店でウィンドウショッピングを楽しんだりして関係の継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握するよう努めている。利用者間で言い合いになっても、すぐに介入するのではなく、状況に応じ対応するようにし、利用者同士の関わりを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも立ち寄って頂けるよう、これまでの関係を大切にしている。退居後、家族から相談の電話が来ることもある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各個人の生活上の希望や意向については、本人に問い掛けたり、日常の会話や行動から汲み取ったり、様々な方法で把握するよう努めている。	利用者の入浴介助や通院介助時に、ゆったりとした会話の中で思いや意向を聞いて記録し、ケア会議で話し合って実現するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し、家族からの情報で、生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等の把握に努めている。本人から聞いたことも書きとめ、職員で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	長年の暮らしの習慣を踏まえ、本人の出来ること、出来なくなったこと、心身の状態等現状を把握するよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット毎の会議の中で、介護計画について、評価、見直しを行っている。本人の言動からより良く暮らすための課題を見つけ、職員の気付きや意見、アイデアを反映し、介護計画を作成している。	毎月1回行う各ユニットのケア会議で日々利用者の状況を記録した日誌を参考に、介護支援専門員を中心に話し合い、3ヶ月に1回介護計画を見直し、家族に説明して承認と確認印を得ている。利用者の体調に変化があればその都度見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の一日の生活状況の記録を付け、身体的、精神的状態を職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今のところ、そういったニーズがないが、必要に応じて柔軟な対応をしていきたい。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々が慰問に来て、利用者と一緒に歌を歌ったり、踊りを踊って、楽しんでいる。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に受診や往診の対応して頂いている。状況によっては、受診に付き添ったり、送迎をしており、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の受診を支援しており、通院送迎は家族が行い介護情報連絡表を持たせている。家族から通院送迎の要請があれば、事業所が行っている。訪問看護ステーションの看護師が月2回訪問してバイタルチェックを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護師の来訪時に、利用者一人ひとりを診て頂き、こちらからも日常の関わりでとらえた情報や気づきを伝え相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療できるよう、病院へ情報提供している。主治医や相談員と退院へ向けての相談を行い、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に沿って、家族と話し合い、医療機関と連携を図り、支援に取り組む体制がある。	利用者の重度化や終末期については家族や職員と話し合い、医療機関と連携して看取りに取り組む支援体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、市民防災センターへ行き、救命救急(心肺蘇生、AEDの使い方)の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームにて避難訓練を行っている(年2回)。市民防災センターへ行き、避難誘導訓練、消火訓練、通報訓練を行っている(年2回)。また、運営推進会議を通して、地域の方にも協力を呼び掛けている。	避難訓練は消防署の指導を受けて、夜間を想定した日中の訓練を含めて年2回行っている。地域住民も見学に来ている。	消防署の立会い指導を受けながら、夜間時の避難訓練を行うよう、また、地域住民の協力も得られるよう更なる働きかけを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応を心掛けている。昨年11月から月1回、尊厳を守る対応について職員と個人面談を行なっている。	運営者は職員研修計画を策定して全職員が研修の機会を得るよう努めている。職員は事業所目標の「利用者の尊厳を守る」や「プライバシーの確保」について内部研修し、日々実践に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望をできるだけ表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中で、可能な限り、どのように過ごしたいか、本人の希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意志を尊重し、季節感のある、その人らしい身だしなみや、好みのおしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に材料を切ったり、盛り付けや味見をして頂いたり、日常的に利用者と職員と一緒に、食事の準備や片付けをしている。	職員は利用者の要望を聞きながら献立し、元気な利用者は調理や盛り付け、配膳、後片付けを行い、職員と一緒に食事をしている。外食の支援として、戸外のレストランでバイキング料理を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量について記録し、不足している時は摂取を勧めている。利用者の状態に応じ、おかげにしたり副菜を刻んだりして、必要な栄養を摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、毎食後、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。呑み込みがあまり良くない利用者は食後だけでなく、食前も口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の一日の排泄のパターンを把握した上、自立した排泄の支援を行っている。	利用者の排泄パターンを記録しており排泄時間に声掛けし、排泄を促している。出来るだけ布パンツを着用できるように、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解しており、牛乳、ヨーグルト等の飲食物や、野菜を多く摂れる献立の工夫をし、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおまかな入浴の曜日、時間は決まっているが、状況によって流動的に対応している。一人ひとりの希望やタイミングにあわせて、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	毎週火曜日を除き、いつでも入浴できるように準備している。利用者の好みの入浴剤を使用したり、入浴拒否者には家族と相談して入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの健康状態、睡眠の状況を把握し、安心して眠れるよう室温、明かり、音等の環境を整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用について理解しており、利用者がきちんと服薬できるよう支援している。薬の変更があった時は、様子を観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	春には庭に花を植えたり、山花のリフレ農園を借りて野菜を栽培したり、夏には盆踊り、ドライブ等利用者の生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望にそって、散歩、ドライブ、買い物等で戸外に外出している。家族との外出を楽しみにしている利用者もいるので、家族の協力を得ながら、外出の準備等支援している。	天気の良い日は、できるだけ戸外に出て散歩するように努めている。事業所行事として花見、屋外食事会、小学校運動会応援、幼稚園慰問などの外出の機会をつくり、利用者のストレス解消に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切さを理解している。希望のある利用者は、本人がお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から家族に連絡を取りたいと要望があった時には、電話番号を押して受話器を渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の支度の匂い、音で五感に働きかけている。毎日掃除を行っているが、特に居間、廊下の床は一日に数回、利用者と一緒にモップ掛けを行い、気持ちよく過ごせるようにしている。季節を感じられるカレンダーを毎月利用者と一緒に作成している。	対面キッチン式の共有の居間兼食堂は、窓から日が射して明るく、掃除が行き届き、壁には利用者の作品である暦や事業所行事の写真を貼り、利用者は食堂の椅子やソファに腰掛けて、笑顔でゆったりと利用者同士で談笑している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下にソファや一人掛けの椅子を配置しており、共用スペースで独りになれたり、気の合った利用者同士で会話をしたりできる居場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた小物、タンス等を持ち込んで頂き、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	利用者の居室は全室南側の窓から日が射して明るく、掃除が行き届いている。居室には思い思いの家具や仏壇などが配置され、壁には家族の写真を飾り、居心地の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、トイレ、浴室に案内札やのれんをつけて、わかりやすいように工夫している。		